



インフォテリア、世界初の商用 XSLT プロセッサ製品を出荷

～ XSLT1.0 勧告にいち早く対応。XML から i モード向けコンテンツ等も生成可能。～

インフォテリア株式会社（東京都品川区、代表取締役社長：平野洋一郎）は、2月29日、インターネット技術 XML^{*1} (eXtensible Markup Language) の関連技術である、XSLT^{*2} (eXtensible Stylesheet Language Transformation) を処理するソフトウェアプロセッサ「iXSLT」(アイ エックスエスエルティー) の出荷を開始したことを発表しました。「iXSLT」は、XSLT 1.0 勧告対応の商用プロセッサとして世界で初めて出荷される製品となります。XSLT 1.0 は、1999年11月16日に W3C から勧告された XML 関連技術で、XML で記述されたデータを様々な構造に変換することができ、さらに、XML データを表示サイズの異なる HTML や i モード^{*3} 向けの Compact HTML^{*4} に変換することも可能です。

「iXSLT」は、W3C の XSLT 1.0 勧告(<http://www.w3.org/TR/xslt>) に準拠した XSLT 処理プロセッサで、C++ による実装で高速処理を実現しています。「iXSLT」は、実行形式 (EXE)、ダイナミックリンク形式 (DLL) および COM 形式で提供されます。実行形式モジュールの場合は、ウェブサーバーの CGI^{*5} に簡単に埋めこんで使用することが出来ます。ダイナミックリンク形式の場合は、プログラムなどから API^{*6} を通じて制御することが可能です。また、あらかじめ XSLT ファイルを読み込んでおくことで複数の同形式の XML ファイルを高速に処理する事が可能です。COM 形式の場合は、Windows Scripting Host (WSH) や Active Server Pages (ASP)^{*7} に埋め込んで使用したり、Visual Basic から使用したりすることが可能です。「iXSLT」は、様々な形の実装に対応するために、標準入出力、ファイル入出力、URL 指定による入力および API によるインターフェイスを装備しています。

PDA、携帯電話 (i モード等) コンテンツの生成を容易に

iXSLT を使用することで、一つの XML データを、リクエストに応じて別々の表示形式で配信することが可能になります。例えば、一つの XML データを、PC のブラウザに表示する場合には通常の HTML、PDA に表示する場合には小さい画面サイズに合わせた HTML、携帯電話 (i モード等) に表示する場合には Compact HTML というように、XML データのワンソースマルチユース (一つのデータを複数用途に使う) が可能になります。

XSLT 1.0 / XPath 1.0 日本語訳仕様書付属

iXSLT には、XSLT 1.0 および XPath 1.0 仕様の全文を日本語に翻訳した仕様書が付属しています。この仕様書は、ページ単位で日本語と英語の原文を対比できる構成になっており、日本語で理解しながら英語原文の確認も可能となっています。

価格

iXSLT は、まず Windows 95/98, Windows NT, Windows 2000 版の出荷が開始されます。iXSLT Windows 対応版の価格は、1 本あたり 40 万円(税別、ランタイムライセンス 5 本含む)で、全国のインフォテリアプロフェッショナルインテグレーターを通じて販売します。その後、Solaris 版の出荷も開始する予定です。

なお、iXSLT は、好評発売中の iHTML の後継製品でもあり、iHTML 1.0 の登録ユーザーの方には、iXSLT を無償で提供します。

インフォテリア株式会社について

インフォテリア株式会社は、1998 年に設立された国内唯一の XML 専門ソフトウェア会社です。インフォテリアでは、先進の XML テクノロジーをベースに、XML の普及を促進するコンポーネント製品や、エレクトロニックコマースでのデータ交換を XML ベースで行うためのツールとサーバー製品などを提供しています。

###

インフォテリア、Infoteria、iXSLT はインフォテリア株式会社の商標です。その他の製品名やブランド名は各社の商標または登録商標です。

<用語説明／注釈>

*1 XML (エックス エム エル)	eXtensible Markup Language の略。データの内容とデータの構造を切り離し、意味付けされた情報を双方向に交換するための標準データフォーマット。1998年2月10日にW3Cより勧告された。次世代のウェブ上の情報交換フォーマットとして注目を浴びている。
*2 XSLT (エックスエスエルティー)	XSL Transformationの略。XSLは、eXtensible Stylesheet Languageの略。XMLデータにスタイル付けを行ったり、XMLのデータ構造を変換するための標準仕様。1999年11月16日にW3Cより勧告された。
*3 iモード (アイモード)	NTTドコモが展開する携帯電話によるデジタル情報サービスおよびそのサービスを受けることができる携帯電話の総称。
*4 Compact HTML (コンパクト エイチティーエムエル)	iモードサービスで使用される簡易版HTML。携帯電話での表示を考慮して通常のHTMLから使用できるタグを大幅に削減したもの。ただし、携帯電話専用の独自タグも一部存在する。
*5 CGI (シージーアイ)	Common Gateway Interfaceの略。ウェブサーバーがブラウザに対して動的処理を行うための方法の一つ。CGIプログラムは、PerlやCなどで書かれることが多い。
*6 API (エーピーアイ)	Application Programming Interfaceの略。コンピュータプログラムが他のコンピュータプログラムを制御するためのインターフェイス。
*7 ASP (エーエスピー)	Active Server Pagesの略。Windowsプラットフォーム上で、ウェブページを動的に作成するための仕様の一つ。マイクロソフトが独自に策定。近年話題になっている、ASP (Application Service Provider)とは別物。
*8 PDA (ピーディーイー)	Personal Digital Assistantの略。個人用携帯端末。代表的な機器としては、シャープのザウルス、IBMのWorkPadなどがある。

<お問い合わせ先>

記事掲載用：	info@infoteria.co.jp	(電子メール)
	http://www.infoteria.com/	(ウェブサイト)
プレス専用：	03-5783-6505	(電話)
	press@infoteria.co.jp	(電子メール)
	担当：社長室広報 中村幸代	

以上